

◆ おらほの地域から元気発信 ◆

まちづくりなみえ 地域づくり支援専門員が見た請戸地区

地域の紹介 請戸地区

請戸地区は災害危険区域に指定され住居を構えることはできませんが、多くの人の努力により震災前の行事などが少しずつ再開され、請戸らしさを感じる場ができ始めています。

そのひとつが請戸漁港です。競りが復活した2020年の春以降、町内でも買えるようになった新鮮な請戸の海産物が食卓に並び、「やっぱり魚は請戸ものだ！」と喜んだ人も多いことでしょう。そして昨年12月には請戸漁港で魚市も開催され、待ちわびていた約200人が列をなすなど、請戸の海産物が多くの人に愛されていることを改めて感じました。「震災前の請戸夕市を思い出すよ」と当時の思い出を懐かしそうに話される人もいました。漁港の復旧工事が進められていた頃、県で整備した見晴台に『浪江の復興は請戸漁港から』という大きい旗が掲げられていたことを振り返ると、現在きれいに整備された漁港に人が集まる様子は、とても感慨深いものがあります。



最東端の標柱

地域行事では、毎年2月に苕野神社において安波祭が行われ神楽や田植踊が奉納されます。踊り手たちは避難で散り散りとなりましたが、安波祭以外にも踊りを披露する機会がある度に各地から集まり、請戸の象徴とも言える民俗芸能を守り継承しています。

また、請戸は県の最東端に位置しており、昨年『福島県最東端の地』という標柱が設置されました。福島県最東端の地「請戸」から見る日の出は、福島県でどこよりも早く、水平線から昇る朝日を迎えられます。一度見たら忘れられない美しい請戸の日の出を、ぜひ多くの人に見てもらいたいです。

地域づくり支援専門員
引地裕子がレポート
しました。



町のできごと 上ノ原行政区

花植え活動と芋煮会

上ノ原行政区では11月26日(土)に避難指示解除後9回目となる花植え活動が実施されました。パンジーやビオラなど840株の花をプランターに植え、行政区内39か所に置きました。今回は女性の皆さんの希望で、初めて芋煮会の用意もされ、温かいけんちん汁も振る舞われました。上ノ原行政区では帰還世帯と移住世帯が少しずつ増えており、地域行事で親睦を深め、住民同士の新たなコミュニティも生まれています。



プランター280個分の花植え



けんちん汁を食べて交流

地域づくり支援専門員
吉田めぐみがレポート
しました。

